

# 公同礼拝

2023年8月6日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 伸米

奏楽 河野和雄

前 奏

招 詞 詩 編 51編12節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

エゼキエル書 36章25～36節 (旧 1356)

マタイによる福音書 16章1～12節 (新 31)

祈 祷

使徒信条

讃 美 歌 9

説 教 「時のしるし」 牧師 高橋和人

祈 祷

讃 美 歌 343

聖 館 式

献 金

頌 栄 539

祝 祷

奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

## 8月の祈り

戦争の狂気と悲惨を忘れることなく、主のみ心を求め、平和の実現をたゆむことなく祈り続けることができるよう。

暴力、虐待、搾取、差別を乗り越えるための道を求め、実現への知恵がもたらされるよう。

全ての者が平和こそ人の道であることに目に向けることができるよう。

戦火や災害によって弱っている人々が力づけられるよう。

## 今日の祈り

広島、長崎の原爆投下の日を覚え、それを忘れず、平和を求める、核によらない世界が実現するよう。

指導者たちの思いが平和へと向けられるよう。時が良くとも悪くとも、神の御心を宣べ伝えることができるよう。

体調を崩し、治療を受けている兄弟姉妹が支えられるよう。

「時のしるし」 高橋和人

マタイによる福音書 16章1～12節

原爆投下から、78年を経た。しかし、核兵器使用の危機はより迫っていると言われる。その悲惨と痛手を知りながら、力と脅しに頼っている。信頼するものを持たず、恐れを練り超えることができないからだ。

主イエスは、天の国、神の支配の時をもたらした。主は福音を語り、そこには貧しいもの、悲しむもの、平和を造り出す者の祝福が語られ、祈りを教えられた。それは、人の求めるものを覆した。主は癒し、わずかなものでとてつもない人々を養われ

た。主の目には、病の者、空腹の者、小さい信仰のものが映っている。

その一方でファリサイ派、サドカイ派は敵意を募らせる。誇り高い人々だ。両派は日頃不仲であった。彼らは共に主を試みる。しるしを見せろとう。主は誘惑者の試みを退けた。しるしを求める誘惑は絶えない。信仰がなければしるしに頼るほかはない。それは目に見え、数えられ、比較でき、証明でき、納得させるものだ。

主は既にしるしをもたらした。ヨハネに伝え、人々の間に起こった救いの出来事以上に主を示すものはない。しるしを求めるのは神なき時代の特徴だ。主はヨナのしるしのほかには与えられないという。教会もしるしの誘惑に気づかねばならない。

主は弟子たちにファリサイ・サドカイのパン種への注意を命じる。しるしを求める心は内部にも入り込む。パン種、イーストは少量でも膨れ上がる。悪いパン種は腐敗させる。見える形での働きや成果を求めることが教会にも入り込む。そして足りないことを嘆く。

主は、パンの残りを集めた籠の数を聞く。恵みは足り、そして余ったのだ。弟子たちはそれを集めた。恵みの計算は出来ない。あるのはそれぞれが、癒され、満たされ、養われたことであった。恵みは人の知恵で量ることはできない。目が開けることがなければ、見えることがない。

この量りも恵みとして与えられるものだ。日々の小さく見える恵みの大きさを量り、大きく見えるものの小ささを暴く。恐れることはない。

主の御心に生きようとして、無力さを知らされるときがある。しかし、主の言葉に生きる祝福に信頼することで、生きる姿勢を貫くことができる。